

<2021年度 オリンピック・ムーブメント事業>

JOCオリンピック教室

— 実施報告書 —

茨城県 潮来市立潮来第一中学校

Olympic
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「オリンピック・ムーブメント事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート） ※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2021年4月～2022年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、
身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、
自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



※学校の通常の授業時間に実施

※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、
生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した
自己紹介



オリンピック自身の経験に基づき「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■ **オリンピック** : 岡里 明美 先生 (バスケットボール) 【出場オリンピック / アトランタ大会】

■ **期 日** : 2021年12月9日(木)

■ **ク ラ ス** : 2年1組 / 運動の時間

○ 自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ 準備体操



・自己紹介の後、オリンピックバリューの3つの価値について、エクセレンス=「素晴らしい」「頑張る」、フレンドシップ=「仲間」「友達」「協力する」、リスペクト=「敬意/尊重」「尊敬」と説明し、運動の時間を通して、オリンピックバリューの3つの価値を感じることができるよう、意識しながら取り組んでほしいと伝え、バスケットボールを使用した準備体操に移る。

○ 主運動 等



・主運動は、①パス回し競争と、②シュート競争を実施。

①パス回し競争、班毎に分かれて円を作り、ボールを持っている生徒の両隣以外の生徒にパスを回し、連続でパスできた回数を競う。

②シュート競争、各班5球ずつボールを持ち、シュートが入ったらボールをゴール下のマーカー上に置き、如何に早くシュートを決められるかを競う。



・運動の時間を振り返り、バスケットボールが得意、不得意がある中、皆で協力して取り組んでいたことが素晴らしかったと伝え、座学の時間では、自身がアトランタ大会に出場するまでに経験したこと等をオリンピックバリューに当てはめながら話し、皆にも運動の時間や日常生活の中にもどのようにオリンピックバリューが関わっているのかを一緒に考える時間にしたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 岡里 明美 先生 (バスケットボール) 【出場オリンピック / アトランタ大会】

■ **期 日** : 2021年12月9日(木)

■ **ク ラ ス** : 2年1組 / 座学の時間

○ 自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ オリンピックの価値を伝える



- ・映像を使用して自己紹介を行った後、近代オリンピックはクーベルタンによって、スポーツを通して社会の発展を促すために創設されたことやオリンピックシンボルには、世界平和等の意味が込められていると伝える。
- ・自身のオリンピックバリューについて、身長が高いことがコンプレックスだったが、バスケットボールに出会い、日本代表のユニフォームを着て、オリンピックに出場することが夢となり、家族や仲間を支えられ、厳しい練習を乗り越え、夢であったオリンピックに出場することができたと話す。

○ 個人ワーク ~ グループワーク 等



- 発問① : 運動の時間を振り返り、オリンピックバリューに当てはめてみよう。
- 発問② : 学校生活や日常生活を振り返り、オリンピックバリューに当てはめてみよう。
- 発表 : エクセレンス : 「最後まで諦めない」「テストが分からなくても空欄を埋めた」等
- フレンドシップ : 「協力してプレイできた」「クラスでの合唱」「給食の配膳」等
- リスペクト : 「全員終わったら拍手すること」「両親に感謝」「お礼を言う」等



- ・座学の時間を振り返り、発表してくれたようにオリンピックバリューはオリンピックだけでなく、皆の身近にもあり、3つのオリンピックの価値に当てはめて考えることで日常生活をより良くすることができる。
- ・リスペクトで仲間や家族への感謝と発表してくれたが、自分自身へのリスペクトも忘れないでほしい。今後、挫折することがあっても、自分自身の可能性に自信を持って、前向きにチャレンジしてほしいと伝え、授業終了。

■オリンピック：岡里 明美 先生 (バスケットボール) 【出場オリンピック / アトランタ大会】

■期 日：2021年12月9日(木)

■ク ラ ス：2年2組 / 運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・自己紹介の後、オリンピックバリューの3つの価値について、エクセレンス=「素晴らしい」「頑張る」、フレンドシップ=「仲間」「友達」「協力する」、リスペクト=「敬意/尊重」「尊敬」と説明し、運動の時間を通してオリンピックバリューの3つの価値を感じることができるよう、意識しながら積極的に取り組んでほしいと伝え、バスケットボールを使用した準備体操に移る。

○主運動 等



・主運動は、①パス回し競争と、②シュート競争を実施。

①パス回し競争、班毎に分かれて円を作り、ボールを持っている生徒の両隣以外の生徒にパスを回し、連続でパスできた回数を競う。

②シュート競争、各班5球ずつボールを持ち、シュートが入ったらボールをゴール下のマーカー上に置き、如何に早くシュートを決められるかを競う。



・運動の時間を振り返り、冒頭に伝えた3つのオリンピックの価値を、しっかり意識しながら実施していたことが素晴らしかったと伝え、座学の時間では、自身がアトランタ大会に出場するまでに経験したこと等をオリンピックバリューに当てはめながら話し、皆にも運動の時間や日常生活の中に、どのようにオリンピックバリューが関わっているのかを一緒に考える時間にしたいと伝え、授業終了。

■オリンピック：岡里 明美 先生 (バスケットボール)【出場オリンピック／アトランタ大会】

■期 日：2021年12月9日(木)

■ク ラ ス：2年2組 / 座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



- ・映像を使用して自己紹介を行った後、東京2020大会を見た人がいるかを生徒に問い掛け、近代オリンピックはクーベルタンによって、スポーツを通して交流を深め、社会の発展を促すために創設されたことや、オリンピックシンボルには世界平和等の意味が込められていると伝える。
- ・自身のオリンピックバリューについて、身長が高いことがコンプレックスだったが、中学2年時に日本代表の試合を見て、オリンピックに出場することが夢となり、厳しい練習も家族や仲間を支えられ、乗り越えることができ、夢であったオリンピックに出場することができたと話す。

○個人ワーク～グループワーク 等



- 発問①：運動の時間を振り返り、オリンピックバリューに当てはめてみよう。
 発問②：学校生活や日常生活を振り返り、オリンピックバリューに当てはめてみよう。
 発表：エクセレンス：「一生懸命頑張る」「準備、片付けを行う」「部活動、学校を休まない」等
 フレンドシップ：「チームワーク」「行事への取り組み」「ライバル心」等
 リスペクト：「ルールを守る」「友達、両親に感謝」「困っている人がいたら助ける」等



- ・座学の時間を振り返り、発表してくれたようにオリンピックバリューはオリンピックだけではなく、皆もより良い人生を送るために日常生活に当てはめて考えることができる大切な価値であると伝える。
- ・今後、失敗や挫折をすることがあったとしても、自分自身に自信を持つことで落ち込むだけでなく、前向きに捉えることができる。失敗や挫折を次に活かし、挑戦することを続けてほしいと伝え、授業終了。

■集合写真

・2年1組



・2年2組



■ 記念品贈呈

・2年1組



・2年2組



■ 修了証贈呈

